

タイトル	「170kD腫瘍随伴性天疱瘡など 7種の未知自己免疫性水疱症抗原のプロテオミクス解析」
名前・役職	荒川 正崇
講座・部門	皮膚科学講座
研究領域	臓器・組織(その他)
重点研究分野への該当	メカニズム解明
キーワード	デスモソーム ・ ヘミデスモソーム ・ 自己抗原
対象疾患	自己免疫性水疱症
研究概要 (背景・目的・特徴)	<p>(研究背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己免疫性水疱症は、様々な皮膚抗原に対する自己抗体によって皮膚が障害され水疱を形成する一連の皮膚疾患であり、異なった抗原に反応する多数の病型が知られている。</li> <li>全ての自己免疫性水疱症の抗原物質は、表皮細胞間接着に深く関与する<b>デスモソーム</b>と表皮基底膜部接着に深く関与する<b>ヘミデスモソーム</b>の構成タンパク質であることが明らかになっている。</li> <li>しかし、多くの病型が知られているが、未だその<b>自己抗原</b>が明らかになっていないものが多く存在する。</li> </ul> <p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己免疫性水疱症の中で、自己抗原が明らかになっていない病型の自己抗原を同定する。</li> </ul>
期待される効果	診断薬、新規治療薬の開発
概略図	<p>・自己免疫性水疱症には、多くの病型があり、それぞれ異なった抗原に反応している。 ・その病型には、未だ明らかになっていない自己抗原が多く存在し、診断が困難である。</p> <p><b>&lt;本研究&gt;</b> これまで同定されていない未知の自己抗原10種を同定し、メカニズムを解明する。(腫瘍随伴性天疱瘡など)</p> <p>自己免疫性水疱症の各自己抗原</p> <p>各病型の診断薬開発 新規治療薬の開発</p>
今後の方針 (科研費報告書より)	眼型粘膜類天疱瘡の自己抗原の同定を試みにおいて、インテグリンベータ4の細胞内ドメインのリコンビナント蛋白を精製し、それをを用いた免疫プロット法と、インテグリンベータ4のcDNAの単離を進めている。また研究課題に挙げているその他の残りの未知自己免疫性水疱症抗原のプロテオミクス解析を進める予定である。 <a href="https://kaken.nii.ac.jp/d/p/23591634.ja.html">https://kaken.nii.ac.jp/d/p/23591634.ja.html</a>
関連特許	無
共同研究先	無
技術段階	研究段階                      実用化段階
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesional Th17 cells and regulatory T cells in bullous pemphigoid. Exp Dermatol. 2011 Dec;20(12):1022-4.</li> <li>Lesional Th17 cells in pemphigus vulgaris and pemphigus foliaceus. J Dermatol Sci. 2009 Mar;53(3):228-31.</li> </ul>